

選択科目(2年次)

皮膚科

I. 一般目標

日常のあるいは救急(1次)の診療を行う上で、最低限必要となる皮膚科領域の知識を知るために、皮膚科疾患の診断について理解し、治療について実践できる。

II. 担当する科目

皮膚科

III. 研修期間

1ヶ月以上

IV. 指導スタッフ

	氏名	職名・担当	医師登録年月	指導医講習
指導責任者	中曽根 裕子	皮膚科部長	1998.5	◎

V. 基本的な指導方法

4. 指導責任者とともに病棟の皮膚科入院患者を担当し、診療にあたる。
5. 指導責任者の外来診療に参加し、診療補助・検査補助を行う。
6. 手術の見学を行う。

VI. 基本的週間スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月			外来診察					外来診療		
火			外来診察					外来診療		
水			外来診察					病棟診察		
木			外来診察					手術		
金			外来診察					-外来診療-		
土			外来診察							

VII. 行動目標(→ p12)

VIII. 経験目標(→ p13~21)

A. 経験すべき診察法・検査・手技

- (7) 医療面接: 患者・家族との信頼関係を構築し、診断治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、
 - ・医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解できる。
 - ・病歴の聴取と記録ができる。
 - ・患者・家族への適切な指示、指導ができる。
- (8) 基本的な身体診察法: 病態の把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記録す

るために、全身皮膚異常の診察ができ、記録できる。

- (9) 基本的な臨床検査:病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体観察から得られた情報をもとに必要な検査を解釈するために、以下の検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

単純X線検査、X線CT検査、MRI検査

- (10) 基本的治療法:基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、薬剤の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。

- (11) 医療記録:チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

- ・診療録をPOSに従って記載し、管理できる。
- ・処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- ・診断書他の書類を作成し、管理できる。
- ・紹介状・紹介返書を作成でき、管理できる。

- (12) 診療計画:保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診断書を作成し、評価するために、

- ・診療計画(診断・治療・患者家族への説明を含む)を作成できる。
- ・診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。
- ・入退院の適応を判断できる。
- ・QOLを考慮にいれた統合的な管理計画へ参画できる。

B. 経験すべき症状・病態・疾患(→ p16・18 の一覧表参照)

患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を行う能力を獲得するために、

3. 頻度の高い以下の症状を経験し、鑑別できる。

(太字下線について、内科研修期間に経験の機会がなかった場合は症例レポートを提出すること)

発疹

4. 経験が求められる疾患・病態(波線については自ら経験する)

湿疹、蕁麻疹、皮膚感染症、薬疹